

コカブトムシを神戸市多井畑で採集

内 田 雅 一

多井畑へは1980年から毎年採集に行っているが、コカブトムシを初めて採集することができたので報告したい。

1985年、5月19日、PM3:00頃、晴天無風、住宅地域の近くの雑木林を200m程入った所にあるクヌギの木の地面から20~30cmの高さにある、直径約50cmの洞の中の枯れ葉を取り除いてみたところ、コカブトムシ1匹の完全な個体を発見し採集した。(この付近には、まだ少数の個体がいると思われる。)

コカブトムシ *Eophileurus chinensis* Falaermann 1♂, 神戸市多井畑 19-V-1985
体長21mm。

ツノブトホソエンマムシ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・163)

高 橋 寿 郎

日本産のホソエンマムシ科は5種とも4種とも云われている(N. itoiとN. osorioicepsは同一種ではないかとのこと、久松、1985)。この4種ともLewisが1885年“On a new genus of Histeridae (Trans. Ent. Soc. Lond., pp. 331-334)”の中に記載された種である。三輪勇四郎博士は1934年“Niponiidaeの解説”と題する大変有益な解説論文を発表されこの仲間を図説して下さった(昆虫界, Vol. 2, No. 11, pp. 476-486, pl. 81)。一般的には小さい種の関係から余り関心も示されなかった様な気もする。図鑑では原色昆虫大図鑑(1963)で2種、原色日本甲虫図鑑Ⅱ(1985)で3種図説されている。

兵庫県下からは従来1種ヒメホソエンマムシ *Niponius osorioiceps* のみが知られているだけであった(Parnassius, No. 29, 1983)。

1984年6月21日神戸市内烏原貯水池畔の土留材の上を歩行中のツノブトホソエンマムシ *N. obtusiceps* Lewis, 1885 1♂を採集した。本種はLewisが“Oyayama (Higo), Ishikari river (Yezo)”を産地に記載された種である。(l. c., p. 334, t. 8, f. 20-23)。